

計画の目的・構成

■ 計画の目的

関係機関が協力して住民・来島者の安全を確保し、円滑に避難できるようにする。

■ 計画の構成

- 想定される火山活動や避難対応などをまとめた「本編」
- 発災時マニュアルとして使用することを想定して本編を整理・補足した「マニュアル編」

計画策定上の考慮事項

■ 火山災害の特殊性

- 噴火の規模や場所、現象が多様
- 火山ごとの個別性の考慮が必要
- 推移を予測することが困難

■ 島しょ型火山の特殊性

- 居住地域が活火山の山麓に位置
- 火山現象の影響が短時間で到達
- 船舶等を利用した島外避難が必要

■ 社会環境の変化

- 前回の噴火時[※]からの社会環境の変化に対応が必要 ※伊豆大島：S61、三宅島：H12
 - ・ 人口の高齢化
 - ・ 島内のバス台数の減少
 - ・ 内地と島を結ぶ大型客船の減少 等

【参考】平均年齢

大島町：40.3歳（S60）⇒ 51.1歳（H28）

三宅村：47.8歳（H12）⇒ 54.2歳（H28）

本編のポイント

■ 基本方針

- 噴火警戒レベル・噴火ケースに応じた避難
- 「一般住民」「避難行動要支援者」「来島者」に応じた避難
- 避難対象者の区分に応じた島内避難と島外避難

■ 共同検討体制

- 火山活動が活発化した場合は、避難対応について関係機関が協議・連携する体制（共同検討体制）を構築
- 火山活動の評価や推移予測については火山専門家と連携

マニュアル編のポイント

■ 作成上の工夫

- 噴火警戒レベル・噴火ケースごとに時系列で整理
- 当該噴火警戒レベルの前後で想定される状況や対応を把握
- 突発的な噴火の発生や噴火警戒レベルが段階を追って上がらない場合にも対応

■ 地域別避難計画

- 島内避難の場合における地域別の避難計画
- 地域ごとに、避難方法や避難における留意事項を整理

伊豆大島火山の概要

■特徴

- 頂上部に直径3~4.5kmのカルデラ
- カルデラの内部に中央火砕丘「三原山」
- 北北西-南南東方向の山腹噴火により形成された多数の側火山

■噴火履歴

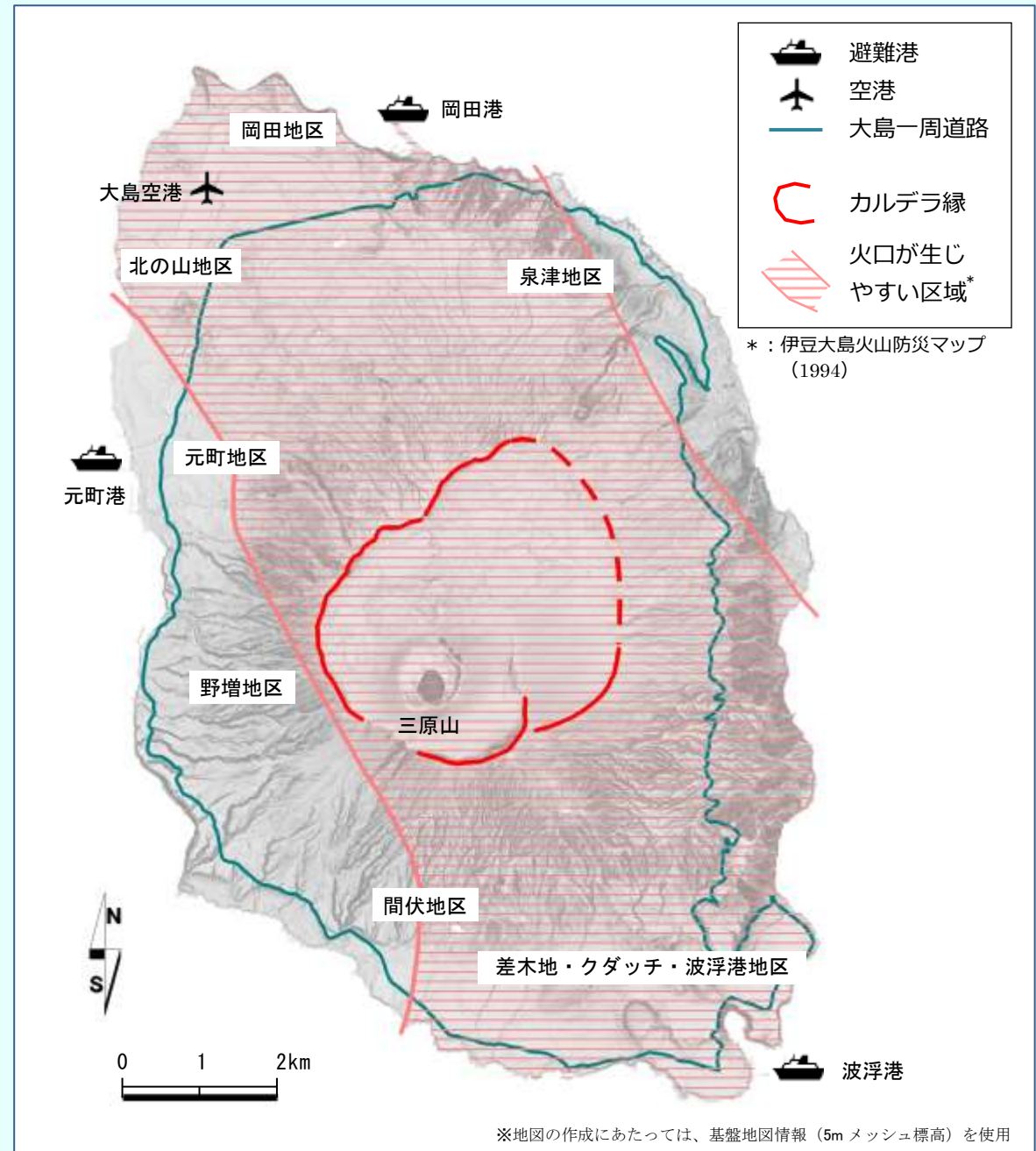
- 約1700年~1500年前以降、大規模噴火が10回発生、最後の大規模噴火は1777年に発生
- 直近100年では中規模噴火が1912年、1950年、1986年に発生(36~38年間隔)

■直近の噴火(1986年11月)

- 山頂噴火に加え約500年振りに山腹噴火が発生
- 全島民(約1万人)が島外避難(約1か月)
- 避難先は都内10区や静岡県(熱海、下田など)

■想定される火山活動

- 想定されるケースは「山頂噴火」と「山腹噴火」
- 山頂噴火の可能性が最も高い
- 山腹噴火が発生する場合は、北北西-南南東方向に伸びる帯状の領域で発生する可能性が高い



三宅島火山の概要

■特徴

- 頂上部に直径 1.6km のカルデラ
- 山腹には割れ目噴火による山腹火口が多数
- 海岸近くにはマグマ水蒸気噴火による爆裂火口（大路池など）が多数

■噴火履歴

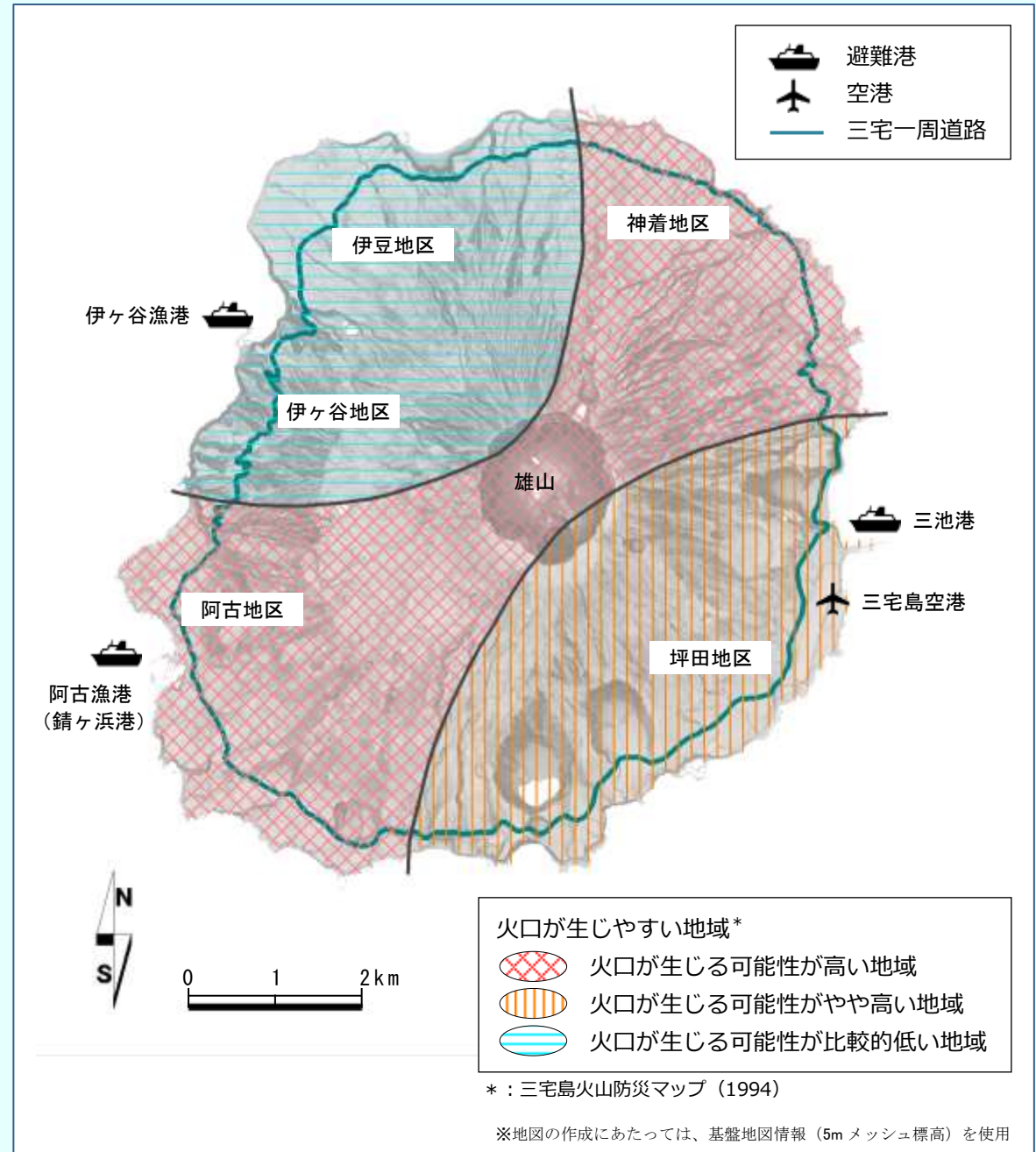
- 15世紀以降、中規模以上の噴火が13回発生（17～69年間隔）
- 直近100年では中規模噴火が1940年、1962年、1983年、2000年に発生（17～22年間隔）

■直近の噴火（2000年6月～8月）

- 島内で始まった地震活動が西方沖（新島・神津島方面）に移動（6～7月）
- 山頂噴火・カルデラ形成へと移行（7～8月）
- 大量の火山ガス放出（9月～）
- 全島民（約3,800人）が島外避難（約4年半）
※全島民避難指示（9月2日）以前に自主避難者多数
- 避難先は都営住宅等のほか、北海道から沖縄まで広域に分散

■想定される火山活動

- 想定されるケースは「山頂噴火」と「山腹噴火」
- 従来は山腹噴火の頻度が高かったが、2000年噴火により山頂噴火の可能性が高くなった。



噴火警戒レベルと避難対応の目安

【伊豆大島】

| レベル1 | レベル2 | レベル3 | | レベル4 | レベル5 |
|-------------|----------------------|-----------------------------|----------------------------|----------------------|------------------------|
| 活火山であることに留意 | 火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生・可能性 | カルデラの中だけに重大な影響を及ぼす噴火が発生・可能性 | カルデラの外まで重大な影響を及ぼす噴火が発生・可能性 | 居住地域に重大な被害を及ぼす噴火の可能性 | 居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生・切迫 |

<立入規制>

| | | | | |
|-----------------------------|--------------|-------------------------|--------------------------|-----------------------------------|
| 山頂火口から約 600m ※平常時は遊歩道等除く | 山頂火口から約 1 km | ・カルデラ内 ・山頂火口から約 2 km | ・カルデラ内 ・カルデラ縁外側約 1 km | 居住地域境界から山頂火口までの範囲の 全ての道路・一部の道路 |
|-----------------------------|--------------|-------------------------|--------------------------|-----------------------------------|

<避難対応>

| | | |
|------------|------|-----------|
| ■ 一般住民 | 避難準備 | 島内避難／島外避難 |
| ■ 避難行動要支援者 | 避難準備 | 島内避難／島外避難 |
| ■ 来島者 | 島外避難 | |

【三宅島】

| レベル1 | レベル2 | レベル3 | | レベル4 | レベル5 |
|-------------|---------------------------|---------------------------|--------------------------|----------------------|------------------------|
| 活火山であることに留意 | 雄山環状線内側に影響を及ぼす山頂噴火が発生・可能性 | 居住地域近くまで重大な影響を及ぼす山頂噴火の可能性 | 居住地域近くまで重大な影響を及ぼす山頂噴火が発生 | 居住地域に重大な被害を及ぼす噴火の可能性 | 居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生・切迫 |

<立入規制>

| | | | |
|------------------------|------------|--------------|---|
| ・山頂火口内 ・主火孔から半径500m | 雄山環状線から山頂側 | 居住地域の境界から山頂側 | 山頂噴火：居住地域までの必要な範囲 山腹噴火：噴火の影響が及ぶ・及ぶおそれのある範囲 |
|------------------------|------------|--------------|---|

<避難対応>

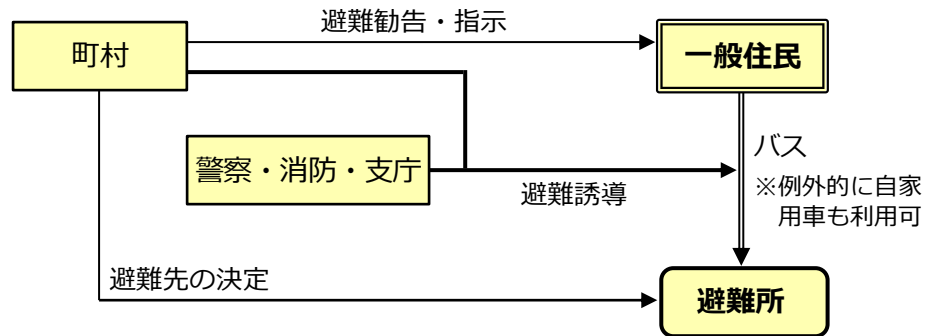
| | | |
|------------|------|------------|
| ■ 一般住民 | 避難準備 | 島内避難／島外避難※ |
| ■ 避難行動要支援者 | 避難準備 | 島内避難／島外避難※ |
| ■ 来島者 | 島外避難 | |

※三宅島は島が円形のため、山頂噴火の場合、全ての居住地域に影響が及ぶと想定されることから「島外避難」のみを想定する。

区分ごとの避難対応

■一般住民（島内避難）

● 避難対応フロー



● 自家用車による避難

- 次の場合は自家用車による避難も可
 - ・ 事態が切迫し、やむを得ない
 - ・ 気象状況により徒歩避難が困難
 - ・ 一時集合場所や避難場所まで相当の時間を要する

● 留意事項

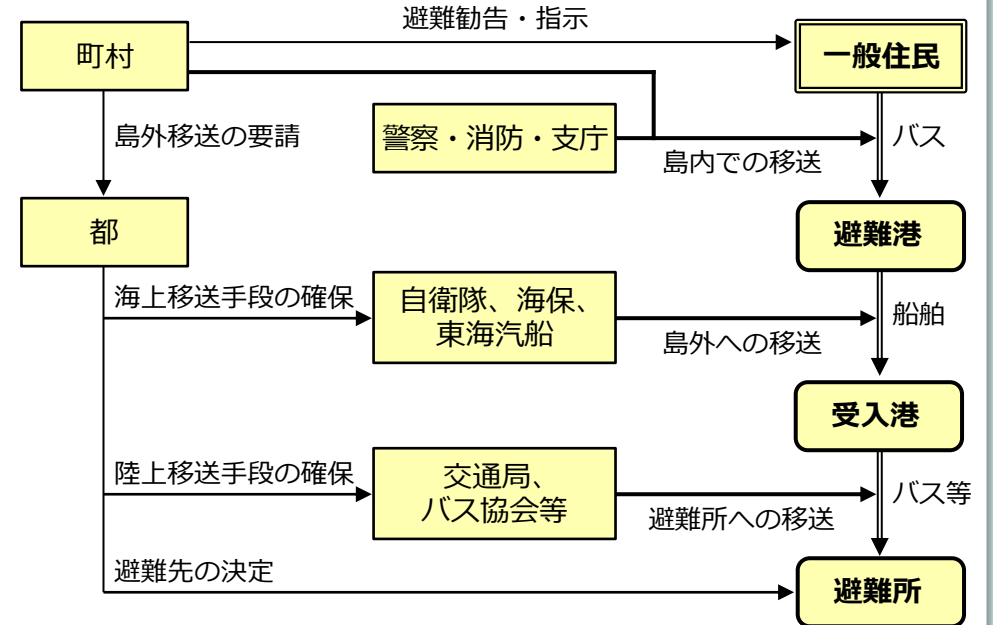
- 避難対象地域にライフライン施設がある場合は、被害の状況により島外避難を検討
- 居住地域近傍でマグマ水蒸気噴火が発生した場合は、大きな噴石の飛散に注意 など

■ 避難行動要支援者 ※社会福祉施設入所者・入院患者を含む。

- 町村、支庁、警察署、消防団などが連携して避難支援
- 火山活動の状況等から必要な場合は「島外避難」
- 島外避難の場合は、都と町村で協議の上、適切な手段により移送

■一般住民（島外避難）

● 避難対応フロー



● 島外避難の判断要素

- 火山現象による島内全域における生命・身体への危険
- ライフライン被害等による島内避難の維持困難
- 気象状況等により船舶が接岸不可能となる可能性 など

来島者（観光客等）

- 原則として「島外避難」
- 観光協会、東海汽船、航空会社、宿泊施設などを通じて島外避難を呼びかけ。